

## 京都「食文化」と京都米 PR を在上海日本国総領事館にて開催

平成 30 年 5 月  
京都府上海事務所  
所長 富岡 一十見

### 開催趣旨

1 月 24 日～2 月 11 日の期間、北京と上海で実施された日本産米キャンペーン「餐桌上の臻品」の一環として、2 月 2 日に在上海日本国総領事館との共催で、「出前(外卖)」の先駆け！—無形文化遺産「和食」を箱詰めにした「懐石弁当」の季節のおもてなしと京都米のおいしさ—を総領事館内多目的ホールで開催させていただきました。

中国国内での和食ブーム。その中でも、特に際立つ「日本米」の美味しさが中国で話題となっていた頃。ちょうどその流れに乗り、京都綾部市のパックご飯が上海の市場に登場。お米一粒の大きさ、ほどよい水分、そして冷めても失われない甘み。上海の一流和食店でも採用になった京都のお米と産地の魅力、そして「京都の食文化」の要素を含ませ、更に中国で一大ブームになっている「出前」のキーワードとして京都食文化 PR を開催致しました。当日は 120 名強の方にご参加いただきました。

講師には農林水産省任命「日本食普及の親善大使」東京和食 SUNwithAQUA 総料理長の本多淳一様、京都綾部市の米生産者の中津隈一樹様をお招きし、京都懐石弁当やその引き立て役である冷めてもおいしい京都米の秘密について御講演いただきました。

1; まずは総領事館大西広報文化部長より、中国人が「冷たいご飯を食べない」という、そして逆に、日本人には「お弁当の冷めたご飯が好きという人も案外多い」ということなど、日中の習慣の違いに触れながら、御挨拶をいただきました。

2; 無形文化遺産「和食」の魅力と懐石料理についての紹介

次に京都府上海事務所より、京都懐石料理や松花堂弁当の由来についての説明





を行いました。懐石料理と茶事の歴史や、懐石料理に盛り込まれる四季折々の素材などを紹介しました。特に、現在、お弁当の代名詞でもある松花堂弁当は、実は京都石清水八幡宮瀧本坊のお坊さん松花堂昭乗が使っていた仏事(精進)料理の仕切りのある箱が原型であり、後に日本料理の老舗吉兆の料理人が、懐石料理をこのような仕切りのあるお弁当箱入りのスタイルにしたというお話を紹介。既に400年の歴史があるという説明には、皆さん興味津々の様子でした。

### 3; 農林水産省任命「日本食普及の親善大使」本多淳一氏よりの「懐石料理」を通しての和食文化 PR

続いて、本多様より和食の概念の紹介から、会席料理と懐石料理の違い、季節折々の素材の紹介や、お弁当に盛り込む際の工夫などをご講演いただくと共に、実演で京都・綾部米を使ったおにぎりも作っていただきました。200個準備したおにぎりはあっという間になくなりました。

紹介の中で、特に来場者の興味を惹き付けていたのは、『ご馳走』の紹介でした。「『ご馳走』とは旬で美味しい食材を得るために早馬を走らせることが語源で、お食事を頂いた後の日本語の挨拶にある「ご馳走様」とは、正にこれに対する感謝を示す言葉。日本には四季があるとは言いますが、四季は世界中にあります。ただ日本人は、古来より四季の移ろいや変化を最大限享受することであり、それが和食の最大の特徴になっていると言えます。日本各地で、その土地その土地、その季節その季節を楽しむ懐石料理があります。」との紹介は、食事後の挨拶がない中国人にとっては、非常に興味ある内容だったようでした。





#### 4; 京都米の美味しさの秘密

京都の米の産地紹介と新種の紹介、気候風土の紹介を京都府上海事務所から行った後、京都綾部の米生産農家の中津隈様よりお米の生産工程や成分について紹介してもらいました。生産者が自ら講演する機会は非常に少なく、丹精込めて作ったお米を食べて欲しいという熱意が会場全体に直接伝わった貴重な会となりました。そして、このお米はパックご飯ですが、上海市内の高級スーパーや上海のレストランで食べることができることも、狙いの一つです。

お米の紹介と共に、会場では京都のお茶も振る舞われました。が、これも瞬時になくなりました。



## 5; 観光客の地方への拡散の為に

京都市内だけではなく、京都郊外の魅力も是非知ってほしいとの狙いから、産地への行き方と周辺魅力の紹介を加えました。折角食べたお米のふるさとを見に行きたい、そんな声も会場では聞かれました。JR西日本上海事務所の協力を得て、京都府綾部への行き方について詳細に説明してもらいました。



以上、

京都の郊外の魅力、ご当地産品の魅力、生産者の声、和食専門家からの文化紹介。そしてそのご飯が上海でも「食べられる」「買える」こと。地域魅力の紹介と販売促進を狙い、開催した企画でした。今後も、京都の魅力、土地の名産、そして生産者と産品の販売促進に繋がるような、地域情報配信と経済促進が一体となった企画を実施していきたいと思っています。

(本件は外務省の「地方の魅力発信プロジェクト」のスキームを活用した事業です。)

